

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者:80代・男性・要介護4

利用期間:令和元年6月～現在(けやき デイサービス)

既往:脳梗塞 心房細動 脊柱管狭窄症 アルツハイマー型認知症

経過:平成31年2月脳梗塞発症し、意思疎通困難となり入院、軽度左片麻痺残存の状態となる。3月に転院し3か月間のリハビリ期間を経て、本年6月より、同居ご家族が就労され日中独居となってしまうため、週4日でデイサービスの利用開始となる。開始時は疲労感強く、離床も2時間が限度で、午前午後とベッドでの静養時間を設定していましたが、現在は取らずに過ごされています。はじめは活動も午後は傾眠傾向強く、眠っていることが多々見受けられましたが、体操や活動に意欲的に参加されるようになり、傾眠が改善され、表情も生き生きとして意欲的になられており、今回推薦をさせていただきます。

内 容

利用者さんは、昨年6月より、週4日でデイサービスを利用されるようになりました。

利用開始当は、疲労感も強く、午前・午後に静養時間を確保してのご利用でした。そのため、朝は入浴以外あまり活動には参加できず、午後は静養後に活動へ参加していましたが、それでも傾眠強く、また何をしても余り意欲的ではなく、表情も少ないように見受けられました。

その為、デイでは座位での耐久性を向上し、離床時間を増やし、意欲的に活動に参加できることを目標とし、皆で関わっていくようにしました。

日常生活動作も、あまり自身では行おうとせず、ご本人も介助されるのを待っている状況で全てにおいて介助が必要な状況でした。そのため、できる限り自身で行うよう促していく、必要最小限の介助をしていくよう話し合いました。

まず、職員間で利用者さんの動作状況についてどんな動作がどこまで可能かを共有し、リハビリではそれを受け、下肢の筋力強化、耐久性の向上、動作訓練を行ってきました。

また、同時に利用者さんの顔の表情にも変化が現れ、覇気がでてきて、活動にも意欲的に参加できるようになり、静養時間も午前の静養時間が無くなり、次に午後もとらなくても過ごせるようになりました。

今は午前、午後の体操や活動に意欲的に参加され、たくさんの表情を見せてくれるようになり、けやきのデイサービス利用日を日々楽しみにしています。